

「住み慣れた家や地域でずっと生活していきたい」 「地域で支えあう仕組み」福祉安心電話サービス事業（青森県）

「福祉安心電話サービス事業」とは

地域で暮らす一人暮らし高齢者等の緊急時における安全や、日常生活の安心とふれあいを図ることを目的として、平成元年より実施されました。

福祉安心電話は、加入者の自宅に設置され、緊急時にボタンを押すことで福祉安心電話中央センターへ自動的に通報がされます。緊急時には、近隣住民や病院、消防署などの関係機関と連携することで、24時間体制で見守りができる仕組みとなっています。また、火災報知機も設置されているため、万一の火災にも対応しています。その他、相談ボタンを押すことで地域の社会福祉協議会へつながり、日頃困っていることや悩みごとなどを相談することができます。

「対象となる人は」どんな人

福祉安心電話サービスを利用するために①～④の要件に該当する方が対象となります。

ります。

①ひとり暮らしの方 ②日中、ご自宅にひとりでいる方 ③高齢者夫婦世帯の方

④病気や障害などをお持ちの方
など、生活環境や体調等による不安や心配を抱えている方々が対象となります。

設置費用はいくらかかるの

■機器本体 購入した場合

66,000円（機器本体、火災報知器、ペンダント型無線発信機、工事費込）

■レンタル料 レンタルをした場合

月額1,000円（設置費無料）

★市町村からの助成を利用できる場合があります★

安心電話について話します

福祉安心電話事業ではご依頼があれば、福祉安心電話中央受信センター内の見学や事業説明を行っています。

参加民生委員さん29名



平成29年10月25日（水）、大鰐町ボランティア連絡協議会より、民生委員さんへの福祉安心電話事業について説明を行いました。

福祉安心電話の仕組み

福祉安心電話はボタンを押すだけで福祉安心電話中央受信センターへ繋がります。相談員が24時間365日対応します。



心配事などは地元の社会福祉協議会で受け付けします。

見守りは協力員が行っています。

緊急通報は中央センターで受け付けします。救急車を呼んだり、協力員さんに行っていただきます。

福祉安心電話だからできる3つの安心

■電話に出られなくても大丈夫

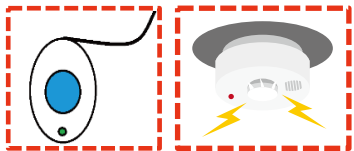
自宅でお使いの電話機と接続することで、利用できます。スピーカー機能により、受話器を取らなくても、そのままお話しすることができます。ペンダントは100メートル圏内であれば通報されます。

■火災にも安心

火災警報器がセットになっています。70度の熱を感知すると、中央センターでは、消防署へ連絡します。

■ふれあいのネットワークづくり

協力員は近隣の方や親せきなどから利用者の希望をきいてお願いします。近所の人やお友だちなどと「共に支えあい」、「共に助け合う」まちづくりをすすめます。



お問い合わせ、相談はお住いの市町村の社会福祉協議会へ
社会福祉法人青森県社会福祉協議会
青森市中央3丁目20-30 電話:017-723-1391 FAX:017-723-1394

つがる市社会福祉協議会（つがる市） 住民ひとり一人を大切にした地域福祉の推進

つがる市社会福祉協議会
住所／つがる市木造若緑52
電話／0173 424 886

当会は平成17年3月1日、町村合併に伴い木造町・森田村・柏村・稲垣村・車力村の1町4村の社会福祉協議会が合併して誕生した法人です。

法人としての基本理念は「住民ひとり一人を大切にした地域福祉の推進」であり、地域（ひとり）も個人（一人）も大切にして地域福祉を進める事業を展開することを心がけています。

現在、第2次地域福祉活動計画（平成29年度～33年度）に基づき地域福祉事業、介護保険事業を推進しております。しかし、福祉をとりまく環境は、めまぐるしく変化しているため、その変化に対応できるように組織のあり方、事業の内容について見直しを図り進めています。

主な実施事業

・地域福祉事業（ほのぼのコミュニティ21推進事業、地区社会福祉協議会活動、ボランティア推進校事業、ボランティアの育成と活動推進等）
・在宅福祉サービス（介護予防・地域支え合

地区社会福祉協議会

本会では旧町村単位に地区社会福祉協議会を設置しています。活動については地区毎に異なりますが、地域の問題把握や要援護者の身近な相談相手として福祉推進委員のみなさんが活動しています。福祉推進委員は地域福祉を推進するにあたり重要な役割を果たしています。現在、市内全域に579名の方に委嘱しており活動していただいています。



※実施事業の詳細についてはホームページを参照してください。
<http://tsugarushishakyo.net/>



稲垣地区社会福祉協議会地区推進福祉推進会議



介護教室～健康寿命はお口の健康から～



鶴田町社協は

法人化50周年を迎えました（鶴田町）

当会は、昭和43年2月21日に青森県内町村7番目に法人認可され、平成30年2月21日で50周年を迎えました。

法人化50周年記念鶴田町社会福祉大会事業として、平成29年9月18日に「式典」、12月23日に「記念講演・小中高校生による福祉作文発表会」を開催し、両日ともに200名を超える参加がありました。

法人化

50周年を迎え、共生社会に向けて、小中高校生の福祉教育の充実を図り、次なる一世紀を目指し、地域福祉の推進の担い手の育成に努めています。



小中高校生福祉作文発表会（平成29年12月23日）

主な実施事業

- * 地域福祉事業（幸せの種まき運動・福祉教育他）
- * 在宅福祉サービス事業（丹頂の集い・ほほえみ弁当他）
- * 団体事務（福祉団体・シルバー人材センター）
- * 地域包括支援センター
- * 介護保険事業・障害福祉サービス事業
- * 鶴遊館（居宅介護支援・通所介護・訪問入浴）
- * 鶴のまどい（地域密着型特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・訪問介護・ケア輸送・福祉用具貸与・訪問看護）
- * 鶴東館（通所介護・就労継続支援B型）



福祉教育講座（手話）



幸せの種まき運動交流会



一般介護予防バスマイル号



ほっこりサロン



Cocorira倶楽部（健康体操）



ゴニンカンクラブ



カラオケクラブ

「介護予防支援事業」の取り組み
「輝く人生いつまでも介護予防でいきいきライフ」

介護が必要な状態にならず、地域の一員として自分らしく自立した生活が送れるように、介護予防に取り組む高齢者を支援しています。

鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」を拠点として、介護予防メニューや地域サロン等を通して健康や体力維持への意欲を高め、仲間づくり、生きがいづくりを目指して、多くの方が参加されています。



法人化50周年記念鶴田町社会福祉大会式典（平成29年9月18日）

蓬田村社会福祉協議会（蓬田村）

蓬田村社会福祉協議会
住所／蓬田村瀬辺地字3584
電話／0174 2728288

いきいきと生活できる地域社会を目指して

「主な取り組み」

在宅福祉事業の推進

- ひとり暮らし高齢者の方へ愛の訪問事業を実施
- 民生委員の皆さんのご協力をいただき、ひとり暮らしの高齢者の安否確認のため、乳酸飲料の配布を行っています。身近な相談相手になる事で、ニーズの把握に努めております。

ひとり暮らし高齢者給食サービス事業

- ひとり暮らしの高齢者を対象に給食会を年に3回実施しています。
- 折り紙やカラオケなどのレクリエーションを行い、各地区の方々と交流を図る事を目的としております。



在宅心身障害者事業

- 身体障害者、知的障害者の方を対象に村外社会参加活動を行っております。

蓬田村社会福祉大会

- 健やかで、安心して暮らせる村づくりをめざして村内の福祉関係者が一堂に会し地域活動を共に考え推進されていくことを願い福祉大会を開催しております。



福祉有償運送事業（移送サービス）

緊急通報システム福祉安心電話事業

- 緊急時の安心のため、機器の設置と見守り体制の整備。

「継続して実施している活動」

老人スポーツ大会

- 地区別対抗戦スポーツ大会を行い体力の増進と仲間づくりを行っています。



蓬田村生活科昔遊び体験学習

- 子供たちに昔の遊びや伝統的な技術を教えることで、心の充足や生きがいを得ることを目的に活動を行っています。



十和田市社会福祉協議会（十和田市）

十和田市社会福祉協議会
住所／十和田市稲生町1833
電話／0176 2326002

高齢者とのふれあい交流事業

十和田市社会福祉協では、「住民が支え合い、誰もがその人らしく健やかで安心して暮らせる」とを基本理念に掲げ、様々な福祉分野の事業を展開しています。今回は高齢者福祉分野から高齢者とのふれあい交流に関連した事業を3つ紹介いたします。

①ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者が気軽に集い「仲間づくり」「健康づくり」「出合いの場づくり」を目的とした事業です。健康体操や料理、レクリエーション等、各サロンで独自のメニュー活動をしています。サロン参加者からは「ここに来ればみんないるから楽しいし、安心できる。」と生きがいにもなっています。平成29年度は29か所でサロン活動を実施しています。



②児童の見守りある居場所づくり 「夏休み寺子屋事業」

児童の長期休みにあたたかな見守りのある居場所と、団塊世代の新たな役割のある居場所として地域の集会所で共に過ごします。寺子屋では、遊び・学び・伝えを行います。毎年2小学校区で実施しています。ボランティアで参加している高齢者からは「地域の子どもを地域で見守ることができてやがいがいい」とある。」とこれまで培った経験を活かして役立っています。



③中高生福祉サミット「思いやり広場」

中高生を対象に福祉やボランティア活動の大切さを学ぶことを目的に開催しています。平成29年度は前述したふれあい・いきいきサロンへ訪問し、中高生が考えたゲームや歌を披露したり、高齢者から踊りを習ったりと世代間交流を行いました。サロン参加者からは「孫とふれあっているみたいで嬉しい。」と違う世代との関わりに喜びを感じる時間を過ごしました。

これから十和田市社会福祉協議会は、地域高齢者と小中高生との世代間交流等を通じて、地域福祉の向上を目指し各種事業を実施して行きます。皆様のご理解と応援をよろしくお願いいたします。





ふれあい・いきいきサロンは、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で、いつまでも生きがいを持ちつつ楽しく暮らしていくことが出来るような居場所づくり・仲間づくりの場です。

六戸町では、平成29年度より介護予防・日常生活総合支援事業がスタートし、住民主体のサービス・活動が進められています。

六戸町社会福祉協議会では、介護予防・日常生活総合支援事業の一環として、町から委託を受け、ふれあい・いきいきサロンを推進しており、14地区で住民の主体的な活動として実施しています。

みんなが
主役です

七百いきいきサロン
児童と昔遊び・食事楽しむ

七百いきいきサロンは平成10年度から始まり今年で20年目となります。

毎年開知小学校の1年生～3年年生の児童と世代間交流を楽しんでいます。

11月のサロンは、お年寄り12人と1年年生の児童8人が参加しました。昼食には、学校農園で育てたサツマイモを提供。町食生活改善推進員の協力を得て、さつまいもがたっぷり入ったクリームシチューとおしるこを作りました。

昼食後は、お手玉やおはじき、メンコなど「昔の遊び」をお年寄りと一緒に楽しみました。お年寄りが唄に合わせてお手玉をする「すごい、上手、」と歓声が上がりました。



「また来ます。」とお年寄り一人一人と握手をしながら別れを惜しんでいました。

参加した児童は、「毎朝、校門の前であいさつしてくれるおじいちゃんがいってうれしかった。」「料理は初めてだったけど、楽しかった。」など感想を発表してくれました。

代表の下田和子さんは「サロンのお年寄りはみんなと会えることを楽しみにしています。今日は本当にありがとう。」とお礼の言葉を述べました。

地域福祉の要としてのサロン活動

六戸町では、いきいきサロン活動を通して、サロンの参加者はもちろん、地域にも目を向け、支え合いの輪を広げる取り組みを行っています。サロン活動が高齢者や子供たちの地域の見守り活動につながるなど、サロンのお世話役の方々が核となり、地域全体の福祉意識が向上しています。また、活動を支えていた方が支えられる側になり、世代交代をしていながら、地域全体に支え合いの気持ちが受け継がれています。

六戸町では、地域ぐるみでサロンを盛り上げ、「一人ひとりみんなが主役」をモットーに取り組んでいます。

サロン活動を通じて住民が集い、交流が深まれば、そこには新たな可能性が生まれてきます。

こうしたサロン活動は地域福祉の要となっています。

地域の皆さんとともに歩む（七戸町）

七戸町社会福祉協議会
住所／上北郡七戸町字立野頭13901
電話／0176-626790

技術を活かし地域を元気に

七戸建築連合組合では、本会と連携し、毎年一回「住宅感謝デー」を実施しています。この活動は、日頃から道具の手入れを行い、刃物研ぎが得意である大工さんの技術を活かし、「大工さんの包丁研ぎ」で地域住民に親しまれ、とても感謝されています。包丁一本100円で刃物研ぎを行い、その益金は本会へ寄付いただいております。開催時期が近くなると、多くの方から問合せがあります。

また、七戸建築連合組合では、「家屋修理ボランティア」の活動も実施しており、高齢者など援助を必要とする世帯を対象として、戸車の交換など簡単な家屋の補修を材料費のみで実施しており、とても喜ばれています。



ふれあいテレフォン届けていますあたたかい声



当町に一人でお住まいの65歳以上の高齢者と福祉安心電話を設置している方々が、安心して生活できるように、8名のふれあいテレフォンボランティアの協力により、月一回程度「お元気ですか?」『お変わりありませんか?』と、安否確認の電話をし、生活状況の把握・孤独感の解消に努めています。

対象者の方々からは、毎月の電話に感謝しています。ボランティアの方からの電話を心待ちにしています。と、喜びの声が届いています。

一人になっても心豊かに生活

本会では、町内会・分館単位の見守り活動の充実のために、「ほのぼのネットワーク活動」を実施しています。この活動は、地域福祉の根幹を成すものであり、少子高齢化や人口の減少など、地域を取り巻く状況が変化する中で、住民同士のつながりが希薄になりつつある今日、地域での繋がりや支え合いを再構築し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域をつくるために、地域住民が主体となつて活動しています。

実施地域においては、訪問活動や日常的な声掛けを行う他、地域住民の企画・運営によるレクリエーションや創作活動を楽しみながら、地域で共に楽しみ、支え合う関係づくりに取り組んでいます。

